



特定非営利活動法人

東京学芸大こども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

TECH未来通信

2021.DEC
VOL.046



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その25)

北海道でのTECH未来

今回は、北海道教育大学附属札幌中学校の佐藤敦(さとう あつし)先生にお話を伺いました。昨年度に引き続き、TECH未来をご活用くださり、公開研究会でもTECH未来を活用した実践をしてくださっていました！そんな佐藤先生にインタビューしてきました。

ー現在、教員何年目ですか？

教員21年目、附属札幌中学校は6年目になります。

ーTECH未来を使用して何年目ですか？

TECH未来は、今年で2年目になります。学校備品としてBASICを38セット購入させていただきました。本校は、1学級36名の3学級になります。基礎的な内容の学習のときは1人1セット使用し、授業ごとに片付けて使用しています。問題解決的な学習では、3人一組で使用し、組み立てたまま次の授業も使用しています。

ー具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

モーターカーの製作になります。始めにギヤの仕組みの学習や早く走るモーターカーの製作などを行った後、問題解決的な学習に入ります。本校では、「SDGsの課題を解決するコンセプトカーの製作」というテーマ

で、第3学年のエネルギー変換と計測・制御の統合的な問題の解決として実践しました。

ー今後はさらにTECH未来でどんなことをしてみたいですか？

今回の実践の中で、生徒からセンサでモータを制御したいという要望が出ています。今後は、micro:bit対応のコントロールボックスも取り入れた実践も取り入れたいと考えています。

ー最後に一言！

TECH未来は、機構の仕組みを学びながら、自分たちのアイデアを形にすることができる教材です。生徒は、何度も壁にあたりながらも目的に合った動作を実現できた時は、満面の笑顔で喜ぶ姿が見られました。そのように、何度もトライ&エラーを繰り返しながら粘り強く生徒が取り組める魅力のある教材だと感じています。これからも生徒の発想を大切に授業を実践できるように頑張りたいと思います。



編集後記

公開授業研究会でのSDGsの課題を解決するコンセプトカーの製作について、大変興味深く拝見させていただきました！ コントロールボックスを取り入れた授業実践もぜひ楽しみにしています！